



**Hard & Seal Engineering Service**

(証券コード:7995)

# 株式会社バルーカー

## 2020年3月期 決算説明会

2020年5月21日

\*本資料上の予想・計画数値は、作成日において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績とは異なる可能性があります  
\*本資料上の変動率(%)の算出にあたっては、可能な限り円単位に基づいた計算をしており、百万円単位での計算とは異なる場合があります



## 2020年3月期 連結決算・事業概況

### 資料構成

- P4 概況
- P5 連結業績半期推移
- P6 営業利益変動要因分解
- P7 バランスシートおよびキャッシュ・フロー
- P8 市場別売上高・地域別売上高
- P9-11 セグメント別実績（シール製品・機能樹脂製品・その他）
- P12 セグメント別受注高・売上高・受注残高四半期推移
- P13 設備投資・研究開発・原材料価格変動影響
- P14 新型コロナウイルス感染症の影響
- P15 株主還元

## 長期経営目標・新中期経営計画“NF2022”

- P17 創業100周年に向けて ーありたい企業像ー
- P18 創業100周年に向けて ー長期経営目標ー
- P19-20 新中期経営計画“NF2022”基本方針
- P21 当面の実行施策



▶ 2020年3月期  
連結決算・事業概況

▷ 長期経営目標・  
新中期経営計画 “NF2022”



## 事業環境悪化の影響により減収減益

	2018年3月期 (前期比)	2019年3月期 (前期比)	2020年3月期 (前期比)	対前期収益 主要変動要因
売上高	47,592 (+9.1%)	51,243 (+7.7%)	<b>48,212</b> (▲5.9%)	<b>&lt;営業利益減少要因&gt;</b> ・先端産業市場・機器市場の停滞と天災影響等による売上の減少 ・企業基盤整備に向けた費用の増加 ・新型コロナウイルス感染症が当決算に与えた影響は限定的(第4四半期)
営業利益	5,374 (+32.2%)	5,609 (+4.4%)	<b>4,214</b> (▲24.9%)	
親会社株主に帰属する純利益	3,833 (+63.2%)	4,087 (+6.6%)	<b>2,918</b> (▲28.6%)	
売上総利益率	36.8%	37.3%	<b>37.3%</b>	<b>&lt;課題&gt;</b> ・新規事業・新規分野への展開と新基幹製品の開発 ・新型コロナウイルス感染症収束後の急回復を展望した活動の推進
営業利益率	11.3%	10.9%	<b>8.7%</b>	
ROE	12.3%	12.4%	<b>8.8%</b>	

(百万円)



## 連結業績半期推移

2020年3月期

連結決算・事業概況

	2018年3月期 第3・4四半期	2019年3月期 第1・2四半期	2019年3月期 第3・4四半期	2020年3月期 第1・2四半期	2020年3月期 第3・4四半期
売上高	24,313	26,084	25,159	24,915	<b>23,296</b>
売上総利益	8,872	9,884	9,209	9,447	<b>8,527</b>
販売管理費	6,236	6,677	6,806	6,902	<b>6,857</b>
営業利益	2,635	3,207	2,402	2,545	<b>1,669</b>
親会社株主に 帰属する 純利益	1,934	2,354	1,733	1,816	<b>1,101</b>
売上総利益率	36.5%	37.9%	36.6%	37.9%	<b>36.6%</b>
営業利益率	10.8%	12.3%	9.5%	10.2%	<b>7.2%</b>

(百万円)



# 営業利益変動要因分解

2020年3月期

連結決算・事業概況

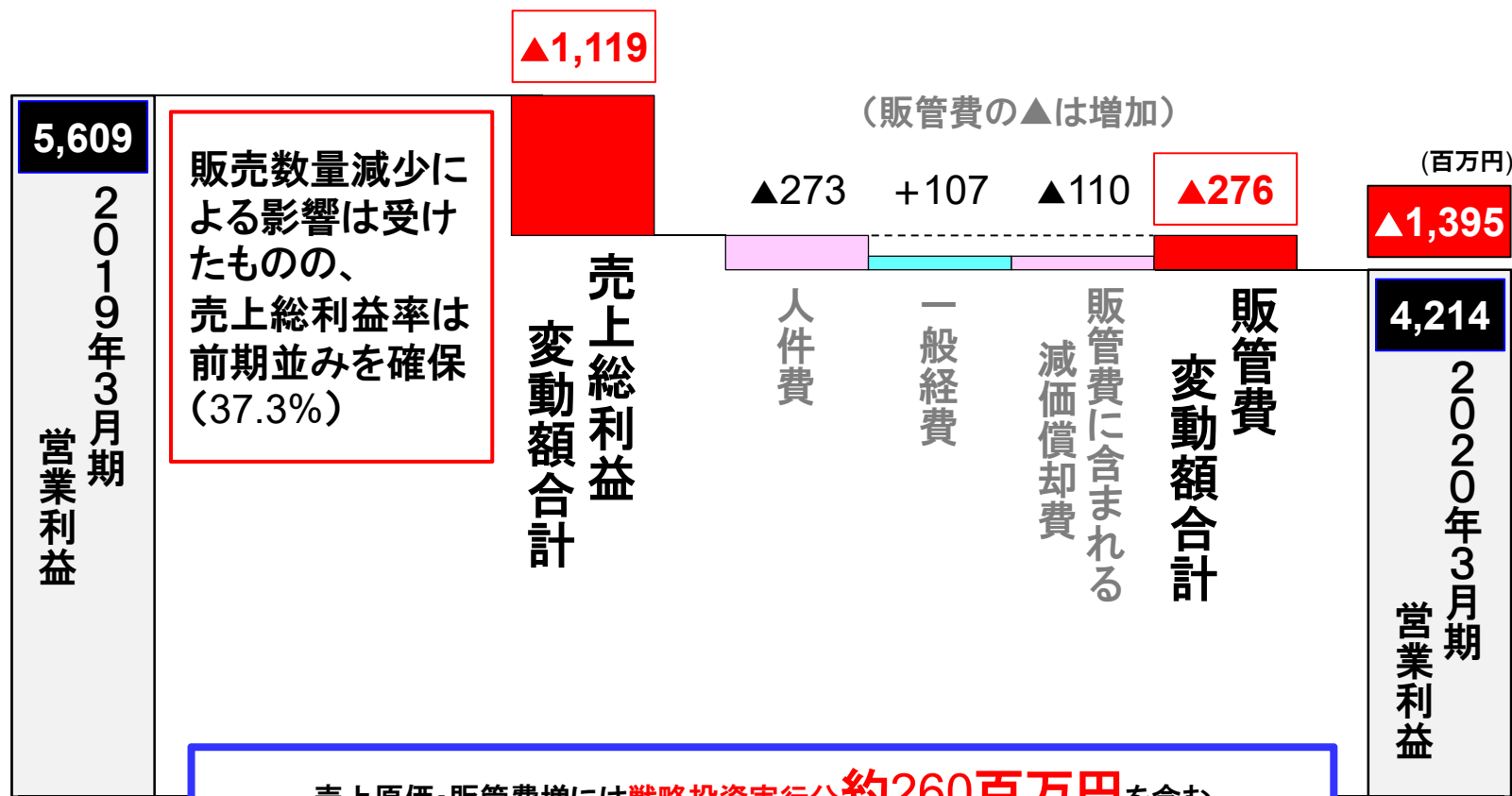
耐性の強化と持続的な成長  
に向けた戦略投資を継続

**攻め**

R&Dの強化、生産拠点の能力増強・効率化

**守り**

リスクマネジメント体制・品質保証体制の整備





# バランスシートおよびキャッシュ・フロー

2020年3月期

連結決算・事業概況

## バランスシート(主要科目)

	2018年3月期 末	2019年3月期 末	2020年3月期 末
負債合計	16,008	15,157	<b>13,197</b>
純資産合計	34,592	34,378	<b>34,930</b>
負債純資産 合計	50,600	49,535	<b>48,128</b>
自己資本 比率	65.3%	66.2%	<b>69.3%</b>
有利子負債	4,259	3,744	<b>3,071</b>
ネット 有利子負債	<b>▲2,255</b>	<b>▲3,364</b>	<b>▲3,572</b>

(百万円)

## キャッシュ・フロー(主要科目)

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
営業CF	3,899	5,362	<b>5,121</b>
投資CF	<b>▲1,190</b>	<b>▲1,960</b>	<b>▲2,799</b>
フリーCF	2,709	3,402	<b>2,321</b>

(百万円)

### ▶ R&Dの強化と事業領域の拡張

- …基礎研究・製品開発・外部連携・H&S要員の増強
- …ネットワークの整備(海外R&D拠点の新設・機能強化)

### ▶ 生産効率と品質の向上

- …新生産技術の開発と導入(自動化の推進)
- …品質検査・保証体制の強化

### ▶ 事業耐性の強化

- …地政学的リスク・天災発生を念頭に置いたサプライチェーンの整備



# 市場別売上高・地域別売上高

2020年3月期

連結決算・事業概況

## 市場別売上高

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 (前期比)
先端産業 市場	151億円	178億円	<b>157億円</b> (▲11.8%)
機器 市場	170億円	181億円	<b>169億円</b> (▲6.6%)
プラント 市場	152億円	149億円	<b>152億円</b> (+2.0%)

先端産業:半導体製造装置、半導体ファブ、FPD関連、電子部品等  
 機器:産業機械、建設機械、造船、航空機、自動車、官公庁等  
 プラント:重化学工業プラント(新設・メンテナンス)、電力・ガス等

(備考)3市場合計値と連結売上高との差額は、“その他市場”と  
 端数による

## 地域別売上高

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 (前期比)
国内	34,624	36,486	<b>33,958</b> (▲6.9%)
国内比率	72.8%	71.2%	<b>70.4%</b>
海外	12,968	14,757	<b>14,253</b> (▲3.4%)
海外比率	27.2%	28.8%	<b>29.6%</b>
アジア	8,923	10,165	<b>9,859</b> (▲3.0%)
北米	3,881	4,410	<b>4,233</b> (▲4.0%)
その他	162	181	<b>161</b> (▲11.0%)

(百万円)





セグメント別実績  
シール製品事業

2020年3月期

連結決算・事業概況

- ▶ 環境悪化により減収減益
- ▶ 先行投資負担により収益性が低下

セグメント 業績	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 (前期比)
売上高	32,425	33,593	<b>32,071</b> (▲4.5%)
セグメント 利益	4,741	4,447	<b>3,360</b> (▲24.5%)
利益率	14.6%	13.2%	<b>10.5%</b>



	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 (前期比)
<b>市場別売上高</b>			
先端産業 市場	95.0億円	95.5億円	<b>88.5億円</b> (▲7.3%)
機器 市場	133.0億円	140.0億円	<b>134.0億円</b> (▲4.3%)
プラント 市場	96.0億円	100.0億円	<b>98.0億円</b> (▲2.0%)

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 (前期比)
<b>地域別売上高</b>			
国内	24,730	25,356	<b>24,065</b> (▲5.1%)
海外	7,695	8,236	<b>8,006</b> (▲2.8%)
海外比率	23.7%	24.5%	<b>25.0%</b>

(百万円)



セグメント別実績  
機能樹脂製品事業

2020年3月期

連結決算・事業概況

- ▶ 環境悪化により減収減益(戦略製品は伸長)
- ▶ 生産・調達網の整備を推進

セグメント 業績	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 (前期比)
売上高	12,446	14,313	<b>13,089</b> (▲8.6%)
セグメント 利益	492	777	<b>554</b> (▲28.7%)
利益率	4.0%	5.4%	<b>4.2%</b>

(百万円)



	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 (前期比)
<b>市場別売上高</b>			
先端産業 市場	32.0億円	53.5億円	<b>42.0億円</b> (▲21.5%)
機器 市場	37.0億円	40.5億円	<b>35.0億円</b> (▲13.6%)
プラント 市場	55.0億円	48.5億円	<b>53.5億円</b> (+10.3%)

<b>地域別売上高</b>			
国内	8,403	9,561	<b>8,330</b> (▲12.9%)
海外	4,043	4,752	<b>4,758</b> (+0.1%)
海外比率	32.5%	33.2%	<b>36.3%</b>

(百万円)



セグメント別実績  
その他事業

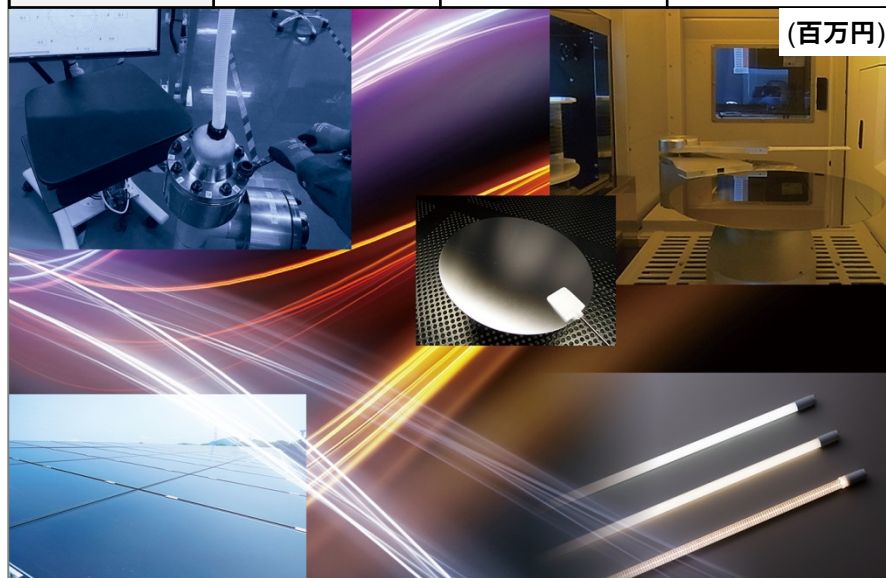
2020年3月期

連結決算・事業概況

- ▶シリコンウエハーリサイクルが下期に減少
- ▶効率化・高度化投資を推進

セグメント 業績	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 (前期比)
売上高	2,720	3,336	<b>3,051</b> (▲8.5%)
セグメント 利益	140	384	<b>299</b> (▲22.1%)
利益率	5.2%	11.5%	<b>9.8%</b>

(百万円)



	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 (前期比)
<b>市場別売上高</b>			
先端産業 市場	24.0億円	29.0億円	<b>26.5億円</b> (▲8.6%)
その他 市場	2.5億円	4.0億円	<b>3.5億円</b> (▲12.5%)

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 (前期比)
<b>地域別売上高</b>			
国内	1,490	1,567	<b>1,562</b> (▲0.3%)
海外	1,229	1,768	<b>1,488</b> (▲15.8%)
海外比率	45.2%	53.0%	<b>48.8%</b>

(百万円)



# セグメント別受注高・売上高・受注残高 四半期推移

2020年3月期

連結決算・事業概況

		2019年 3月期 第3四半期	2019年 3月期 第4四半期	2020年 3月期 第1四半期	2020年 3月期 第2四半期	2020年 3月期 第3四半期	2020年 3月期 第4四半期
受注高	連結	13,890	12,448	12,866	11,212	10,835	<b>12,226</b>
	シール	8,378	8,358	7,955	7,534	7,654	<b>8,278</b>
	機能樹脂	4,631	3,284	4,060	2,753	2,595	<b>3,314</b>
	その他	880	805	849	923	585	<b>634</b>
売上高	連結	12,625	12,533	12,619	12,296	11,645	<b>11,650</b>
	シール	8,331	8,128	8,451	7,865	7,789	<b>7,966</b>
	機能樹脂	3,452	3,581	3,340	3,525	3,192	<b>3,030</b>
	その他	841	823	827	905	663	<b>653</b>
受注残高	連結	8,202	8,117	8,364	7,280	6,469	<b>7,045</b>
	シール	4,002	4,232	3,736	3,406	3,270	<b>3,583</b>
	機能樹脂	3,898	3,601	4,322	3,550	2,953	<b>3,236</b>
	その他	302	284	305	323	244	<b>225</b>
B/ブレシオ		1.05	1.05	1.01	0.97	0.92	<b>0.99</b>

## 受注高

<シール製品事業>  
先端産業市場向け高機能  
シール製品の需要回復と  
プラント市場向けの季節要因  
による増加を反映

<機能樹脂製品事業>  
先端産業市場向け特殊タンク  
の大型案件獲得が寄与

## 受注残高

シール製品事業・機能樹脂  
製品事業とも受注高の増加を  
反映

受注高は第3四半期に比して  
改善が目立つ。  
前年同四半期比は減少率は  
一桁台まで回復

\* B/ブレシオは2四半期移動平均値





# 設備投資・研究開発・原材料価格変動影響

2020年3月期

連結決算・事業概況

## 設備投資(完工・仕掛案件)

### <シール製品事業>

- ・生産拠点の環境対策の強化
- ・先端産業市場向け高機能シール製品の  
中国生産拠点の立ち上げと米國中核拠点  
の整備

### <機能樹脂製品事業>

- ・先端産業市場・プラント市場向け  
特殊タンク製品の供給体制の整備

### <その他事業>

- ・シリコンウエハーリサイクルの品質向上

## 原材料価格変動影響

- ・ふっ素樹脂材料と金属材料の値下がり  
により負担が減少

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 (前期比)
設備投資額	2,073	2,289	<b>2,907</b> (+27.0%)
<参考> 設備投資額 (着工基準)	3,226	3,116	<b>3,281</b> (+5.3%)
減価償却費	1,526	1,716	<b>2,099</b> (+22.3%)
研究開発費	919	1,068	<b>1,065</b> (▲0.3%)
研究開発費 比率	1.9%	2.1%	<b>2.2%</b>
原材料価格 変動影響 (負担増)	353	352	<b>▲23</b>

(百万円)



## ▶ 2020年3月期連結業績への影響

### 生産など企業活動への影響

- ・海外の一部生産拠点で社員の出勤停止等の影響により稼働率が低下
- ・国内外とも原材料や部品の入手状況は特段の変化なし
- ・国内全拠点においてテレワーク・時差出勤を推進
- ・海外拠点はコンプライアンスを第一に、各地の状況に応じた勤務を実施

### 社外要因による販売への影響

- ・自動車など機器市場向けの販売に限定的ながらもマイナスの影響
- ・先端産業市場などの一部顧客でサプライチェーン寸断に備えた需要が発生

## ▶ 2021年3月期連結業績への影響見通し

- ・現時点で収束時期が予想できず、事業への影響額は算定不可能
- ・先端産業市場は短期的にはプラスの影響もあり得る
  - …世界的なりモートワークの普及によるサーバー需要増等が追い風になるが、反動減は要警戒
  - …中国・米国などの経済活動再開状況によっては急速なりカバーが可能
- ・機器市場に与えるマイナスの影響は大きい
  - …自動車の販売減に加え、国内外の設備投資・インフラ整備計画の見直しによる影響が不可避
- ・プラント市場は影響が不透明
  - …需要減に加え、国内メンテナンス要員不足や原油安によるプロジェクト中断は懸念材料



# 株主還元

2020年3月期

連結決算・事業概況

	第2四半期末 (中間)配当	期末配当	年間配当	自己株式取得	株主還元性向
2018年3月期	40.0円	45.0円	85.0円	305.4百万円 <small>単元未満株式 取得分を含む</small>	47.1%
2019年3月期	45.0円	50.0円	95.0円		40.9%
2020年3月期	50.0円	50.0円 (予想)	100.0円 (予想)	—	60.3% <small>配当予想のみ</small>

配当と自己株式取得をあわせた金額を「株主還元」と設定し、還元総額の親会社株主に帰属する当期純利益に対する比率、すなわち「株主還元性向」の50%を目標としつつ以下の事項を勘案し、株主還元を行う。

- ・将来の企業価値の最大化に向けた設備投資および研究開発投資ならびに戦略的投資の必要性
- ・リスク管理体制の強化や人材開発の拡充などの企業基盤整備ならびに事業環境の変動に対する備えの重要性

当社グループの連結株主還元性向は以下の基準を採用

$$\text{連結株主還元性向} = \frac{\text{当年度配当金総額} + \text{当年度業績を基準とした自己株式取得額}}{\text{当年度当期純利益}}$$



▷ 2020年3月期  
連結決算・事業概況

▶ 長期経営目標・  
新中期経営計画 “NF2022”






▶ 創業100周年のありたい企業像

## 未来と未知に挑むチャレンジングな企業

— 人類の豊かさと地球環境に貢献するために —

- 
- A graphic consisting of three red chevrons pointing to the right, stacked vertically.
1. あくなき成長戦略の追求とモニタリング
  2. 成長をゆるぎないものにする経営基盤の強化
  3. より良き地球市民として「環境・社会・企業統治」への積極的な取り組み

# 創業100周年に向けて ー長期経営目標ー



▶ チャレンジなくして到達し得ない  
高い水準の目標を設定

	2020年3月期	2027年3月期	期間変動 平均年間変動
売上高	482億円	<b>800億円</b>	<b>65.9%</b> <b>7.5%</b>
ROE	8.8%	<b>15.0%</b>	<b>+6.2pt</b> <b>+0.9pt</b>

- ▶ 新事業・新分野への意欲的な展開
- ▶ M&A・提携の積極的な実施
- ▶ 資本効率と財務健全性との最適バランスの追求
- ▶ SDGsを強く意識した企業活動の実践



# 新中期経営計画“NF2022”基本方針



NVシリーズ  
の成果



創業100周年  
への改革

- ・環境変化に耐えうる体制の実現
- ・次の時代に通用する価値創造力の獲得

## ▶ NF(New Frontier)2022 ◀

創業100周年を超えて次の時代に  
さらなる健全で持続的な成長を実現するために  
「THE VALQUA WAY」のもと  
グループ一丸となり大胆でダイナミックな  
事業基盤を再構築しよう



前中計“NV・S8”における一部の戦略を進化のうえ継続し、  
“NF2022”においてはチャレンジによる成功例を積み上げる

# 新中期経営計画“NF2022”基本方針



## 1. 選択と集中による既存事業領域の収益拡大と新規事業領域の獲得

- 成長市場向け戦略への集中投資の実行
- H&Sコンセプトの浸透による新たな事業機会の獲得

## 2. オープンイノベーションの強力な実行（提携・M&A等の加速）

- 従来の視点に捉われない新分野・新商材開発力の強化

## 3. 大胆な投資（研究開発と人材育成）の加速

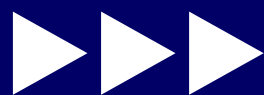
- R&Dの拡充と社員一人ひとりの“人財化”による価値創造力の向上

## 4. ITの徹底活用による全部門の効率化と顧客サービスの追求

- 新基幹システムによる業務品質と新生産技術による製品品質の向上

## 5. グローバル人材の活性につながるダイナミックな施策の実行

- グループ経営陣の多国籍化などのボーダーレス人事の推進



新型コロナウイルス感染症収束後、産業地図の変化に対応する新たな戦略も盛り込んだ詳細を公表予定

## ▶ あらゆる面の効率化を推進するとともに “ポストCOVID-19”を展望した施策を実行

### ▶ BCPのさらなる強化

- ・・・地政学的リスク・天災等への耐性を再検証し、サプライチェーンの再設計と整備を推進

### ▶ 持続的な生産性の向上

- ・・・将来に向けてリモートワーク等のノウハウを蓄積
- ・・・基幹システムの刷新を加速

### ▶ 戦略市場への取り組みの拡充

- ・・・先端産業市場に向けた体制の整備を継続し、追加施策も実行

### ▶ R&Dの強化と協業の促進

- ・・・製品開発の強化・新規事業の迅速な立ち上げに向けたオープンイノベーションを積極的に実施

経済活動の本格再開後は市場を上回る回復と拡大を図る



# THE VALQUA WAY

**Value  
& Quality**  
(価値の創造と  
品質の向上)

基本理念

- ・社会の発展のために
- ・正正堂堂と
- ・世界中のステークホルダーへ
- ・独創的技術で

4つの  
経営理念

行動指針  
10項

- (1) 事業を通じた社会への貢献
- (2) 顧客感動の提供
- (3) 人格と個性の尊重
- (4) 株主との信頼関係の構築
- (5) 地域社会との共生
- (6) 安全衛生は全てに優先
- (7) コンプライアンス遵守と誠実な行動
- (8) 環境にやさしいモノづくり
- (9) 資産の保全と有効活用
- (10) チャレンジ精神にあふれた「学習と成長」への強いこだわり